

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成 23 年 4 月 22 日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

京 都 大 学 総 長

松 本 紘

事 業 区 分	平成 22 年度・大学全体計画事業助成			
事 業 名	地域講演会の開催			
成 果 の 概 要	「成果の概要」以外に添付する資料 無 有()			
会 計 報 告	事業に要した経費総額	1,900,000円		
	うち当財団からの助成額	4,000,000円	うち地域講演会 1,900,000円 うち東京フォーラム 2,100,000円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)		
	経 費 の 内 訳 と 助 成 金 の 使 途 に つ い て			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	会議費	208,220	208,220	
	印刷製本	153,300	153,300	
	通信運搬費	97,470	97,470	
	旅費	1,286,710	1,286,710	
	謝金	152,320	152,320	
	消耗品等	1,980	1,980	
合 計	1,900,000	1,900,000		

東京フォーラムは震災のため実施を延期

成 果 の 概 要

京都大学総長 松本 紘

【地域講演会の開催】

（総評）

「京都大学地域講演会は」は、「京都大学教育研究振興財団」の後援を得て、京都大学が伝統的に蓄積して来た高度な学術や知的財産に加え、現在進行している教育・研究活動や新たな研究成果を全国の各地域に出向き紹介することを通じて、広く社会に還元するために開催したものである。

札幌講演会では、「こころ」をメインテーマとし、大学院医学研究科（精神医学）村井俊哉 教授が「熱中と依存の境界線」そして、こころの未来研究センター 吉川左紀子 センター長が「対話の認知科学：こころの未来研究センターの試み」と題した講演を行った。参加者は地元マスコミの宣伝効果もあり総勢 233 名で盛会のうちに閉会した。

高知講演会では、「森・里・海」をメインテーマとし、フィールド科学教育研究センター長 白山義久 教授が「海の生き物の多様性 その恵みを守り使うことを考える」そして、同副センター長 柴田昌三 教授が「仁淀川流域で探求する森里海連環」と題した講演を行った。参加者は地元高校などへの事前の宣伝効果もあり総勢 126 名で盛会のうちに閉会した。

続いて、この講演に参加した高校生と京都大学との対話集会を開き、松本 紘 総長から高校生へのメッセージの後、大西有三 理事、そして講師の白山教授及び柴田教授と 20 数名の高校生との間で活発に質疑が交わされた。

（今後の計画）

平成 23 年度の計画についても「教育・研究活動を通じた社会との連携協力事業」を更に進める効果が期待できるため、今後とも貴財団からの助成をお願いしたい。